

洛東園 だより

■平成26年4月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:西村 英亮
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

ご挨拶 ～歩～

社会福祉法人 洛東園 園長 西村 英亮

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、社会福祉法人洛東園園長に拝命を受けました西村英亮でございます。前園長の木村晴恵の定年退職により、平成26年2月1日から、社会福祉法人洛東園園長には西村英亮、特別養護老人ホーム修道洛東園施設長には廣瀬可奈子が就任致しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は学生時代に2年間、老人ホームでアルバイトをしたことがきっかけで、平成6年の4月から社会福祉法人洛東園で勤務させて頂いております。当初はデイサービスセンターで勤務をさせて頂きましたが、その後、人事異動でホームヘルプサービス、小規模多機能サービスもみじの家、特別養護老人ホーム修道洛東園で勤務をさせて頂き現在に至ります。

入職当初、前木村園長は介護現場で特別養護老人ホームの主任をされており、男性職員も非常に少なく数名であったと思いますが、介護経験が全くなかった私をいつも気にかけて下さり、時に優しく、時に厳しく

指導して頂きました。当時、洛東園での季節の行事が本当に楽しかったことが記憶に残っています。春は屋外バーベキュー、夏は大盆踊り大会、秋は屋外大運動会、冬は餅つき大会等々があり、中でも養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスのご利用者、ご家族、職員が参加しての秋の大運動会では、ご利用者も走ったり、走れない方は車椅子でパン食い競争等々に参加されていた姿が印象に残っています。

『苦楽は生涯の道連れ』と申しますが、ご家族、地域の皆様のご理解、諸先輩方からのご指導、周りの職員の協力を恵まれて、支えられて、これまでやってこることができたと感じております。皆様からの支えに報いるためにも、地域の活性化に向けた社会福祉法人としての地域貢献、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らせる地域づくり、サービスの質の向上、人材育成を目標に法人役職員が志を一つに、ご利用者、ご家族、地域の皆様とともに考え、歩みをすすめていきたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

□ 特別養護老人ホーム「洛東園」 一歩一歩



Yさんが「父親の13回忌が1月にあるんや。」と言われたのは、昨年の秋頃のことでした。その頃のYさんは、日中のほとんどを車椅子に座って過ごされ、少しの距離なら伝い歩きをされるという状態でした。

13回忌に行く決めてからのYさんは、「ちょっと歩くの付き合っ。」と職員を誘い、「13回忌までには、お寺の中くらいは歩ける様になってたいなあ。」と自分から積極的に歩行練習を取り組まれてきました。

年末頃からは、歩行練習だけでなく、階段の上り降りも頑張られて、一歩一歩、歩く距離が伸びていきました。

ある時、歩行練習中にYさんは「7回忌は行けへんかったんや…」と、寂しそうな表情で話されました。その頃、体調を崩し、入院していた為、参列出来なかったそうです。その時の悔しい思いもあり、13回忌が近づくにつれ、ますます熱心に歩行練習に取り組まれる様になりました。

13回忌当日、Yさんは、お寺の中でお焼香を車椅子ではなく、歩いて行う事が出来ました。

久しぶりに会った甥や、妹と懐かしそうに昔話をされ、洛東園に戻ってくると、「無事に終わって良かった。」と安堵の表情をされていました。

13回忌は終わりましたが、Yさんは「これからも歩く練習をしていきたい。」と話されています。



一歩、一歩
歩く練習



少しずつ
これからも

特別養護老人ホーム「修道洛東園」 新しい1歩



昨年の12月中旬、Iさんは施設から自宅に戻り、新しい生活への一歩を踏み出されました。入所時のIさんは、体調を崩されがちでしたが、修道洛東園での生活の中で体調が良くなり、「何でも自分でしたい。」「もう一度自宅で自由に暮らしたい。」という希望を持たれるようになりました。

まずIさんは、自宅に帰る為には健康が一番と考えられました。毎日、万歩計を持って職員と一緒に歩いたり、階段の昇り降りを一生懸命頑張られました。

また、地域行事には修道洛東園の他のご利用者さんとも一緒に出掛けられていましたが、それだけでなく、Iさん自ら「今月はコンビニやなしに、郵

便局に行きたいんや。」「友人の個展に行きたい。」等外出するための計画を職員に相談されるようになりました。

施設での生活が3年を過ぎる前に、Iさんの心身状態の回復が認められたと判断があり、ご本人とご家族に相談した結果、自宅での生活を決められました。それを機に、金銭管理や薬管理等、自宅へ帰ってから必要なことを職員と考え、練習をしました。

自宅へ帰る日、Iさんは「今後はボランティアとしてくるから、私ができることは残しておいてね。」と笑顔があふれていました。



□ 養護老人ホーム ウォーキング

洛東園の正門から約300m程南に行ったところにある臥雲橋を渡ると紅葉で有名な東福寺があります。自然に恵まれた、とても環境の良いところです。洛東園内にも四季折々の花が咲いています。

若い頃から歩くことが好きなNさんは、出町柳から京都駅まで歩かれたり、左大文字からきぬかけの路を通って嵐山まで歩かれたりする健脚の持ち主でした。入院し歩くことができない日もありましたが、洛東園に入所されたことをきっかけに、再びウォーキングを始められました。

以前のように長い距離を歩かれることはできなくなりましたが、現在もバスで京都駅まで出掛け



てショッピングをされています。よく行かれるお店は100円ショップです。「収納ケースといってもいっぱい種類があるでしょ。いろいろ見て回るだけでも楽しい。」「ヨドバシカメラは広いから迷子になりそうやけど、親切な店員さんに案内してもらおうの。」と、嬉しそうに話されていました。

また、岡崎にある動物園にもよく行かれ「ヘビのダイちゃん(アオダイショウ)が真ん丸な目、真っ黒な目をしていてかわいらしい、また会いたい。」と、楽しみにされています。

「自分のペースで色々な場所を散策できることは幸せです。」と、ウォーキングを通して体を動かす機会をつくり、健康の維持に努められています。自然に触れたり、四季の移ろいを感じることができ、新しい発見や出会いも楽しみの一つになっているそうです。

職員より

「Nさん、これからも趣味のウォーキングを続けて、またお話を聞かせて下さい!!」



訪問介護 共に歩む



お一人暮らしのMさんは、週4回のヘルパーの訪問を心待ちにされています。「こんにちは、洛東園のSです。おじゃまします。」と玄関で声をかけると、奥の部屋からMさんの「Sちゃん、待ってたんや。」との元気な声が聞こえます。

ヘルパーが玄関から部屋の中に入り顔を合わすと、

「もうすぐお風呂のお湯が溜るし、お風呂に入ってもええか」「はい、Mさんが浴室に入られる時、呼んで下さいね」と、いつものやりとりがあります。

Mさんが浴室に入られて間もなくすると、「Sちゃん頭洗ってくれるか」との声が聞こえます。

ヘルパーが浴室に入り、頭にお湯、シャンプーをかけるとご自分で手の届く前の方を洗われます。それが終わると「いつもみたいに後ろを洗ってな。」と言われるので、ヘルパーが手の届かない後ろの方を洗い、お湯をかけます。身体も同じ様に、手の届くところは、ご自分で洗われます。

ご自分で出来るところは、自分で行って頂き、『一人では難しい』『やりにくい』ところだけをヘルパーがお手伝いしています。

Mさんは、「お風呂に入るのが面倒くさかったけど、Sちゃんが来てくれて、助けてくれるから、入ってみようと思えるようになった。」と言って下さいました。

ヘルパーが来る事で、一人では入浴しようと思えなかった入浴が出来るようになり、洗濯や着替えなど面倒に感じておられたことも積極的にされるようになりました。

今後も前向きな気持ちを持ち続けて頂けるように寄り添い歩んで行きたいと思えます。

□ デイサービスセンター ベランダの散歩



「ちょっと、ベランダを散歩させてもらいますね。」

昼食後、Hさんは職員にそう声をかけると、ベランダに出て、向かいに見える本堂に手を合わせてからゆっくりと歩き始められます。デイサービスに来た日には、一度も休むことなく、続けておられます。

そんなHさんに、先日、散歩について、お話を聞かせてもらいました。

「いつから始めたのか、と聞かれても…。もう忘れてしまうほど、前からですわ。お医者さんに、『歩きなさい』と言われていて、『デイサービスのベランダで歩いています』とお医者さんに話したら、『そら、ええわ!』と、言われましたわ。ここやったら雨も当たらず、平らで歩きやすく、ありがたいです。おかげさんで、しっかりした足取りで歩けるようになったので、外に出かけるときも自

信持てますわ。」

そんな話をして下さった後、いつものようにベランダの端から端まで、散歩されました。その後、フロアに戻って来られ、「今日は5往復してきました。」と笑顔で話されました。

Hさんが楽しそうに散歩されるのを見て、他にもベランダに出られ、歩かれる利用者さんが増えてきました。

デイサービスのベランダは約20メートルの直線です。緑に囲まれた環境の中での散歩が、皆さんの体力づくりのお役に立てれば嬉しい、と思っております。



□ 地域包括支援センター

みせばん

店番を続けるために…



ケアマネジャーは毎月、利用者さんのご自宅に訪問させて頂いております。Oさん宅に訪問すると、いつもお店の事務所の椅子に座って「こんにちは。いらっしゃい。」と声をかけて下さいます。

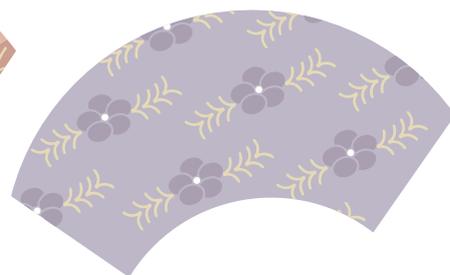
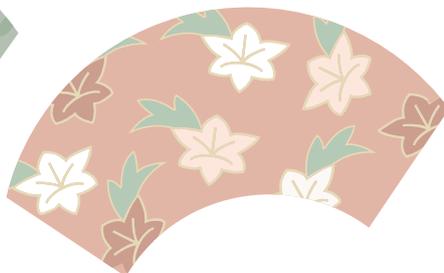
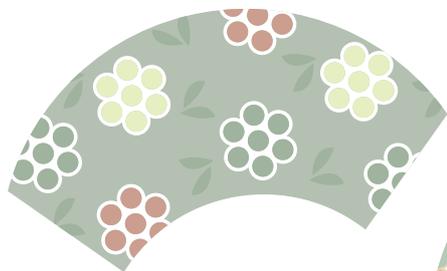
Oさんの家は、子どもの時から扇子屋を営んでおり、若い頃からご両親と一緒に仕事をされてきました。引退して、今では車椅子を使っておられ、一人では椅子に移ることもできません。でも、「電話番くらいならできるやろ。」と言って、いつも事務所の椅子に座り、「家にいる間は、いつまでも店番をしたい。」と話されています。

店番をずっと続けていくには、体調管理はもちろんのこと、ずっと座って過ごせるように筋力の維持や座り心地等、様々な課題を一緒に考える必要があります。そして、訪問診療や訪問看護、

福祉用具のレンタル、デイサービスやショートステイを利用しながら、ご自分でも引き出しを少し開けて指をかけることにより、身体を支えられるように工夫しながら頑張っておられます。

「今は電話をとることはできなくなってきたんですが、ここに座って、お店に来た人や通りすがりの人を見てるんです。桜が咲いた時とか。雨が降っているとか、ここから外を見ているのが好きなんです。」と笑顔で話されています。Oさんにとって店番をするということは今までしてきた仕事の誇りであると同時に、自宅で暮らしていると感じられる時ではないかと思えます。

ご本人とご家族の望まれる生活が続けられるように、これからも一緒に歩いていけたらと思います。



もみじの家 歩く

もみじの家の近くには公園や鴨川等があり、四季折々の風景が見られます。天気の良い日は散歩に出かけたり、近所のお店に買い物や散髪にも行ったり、ボランティアさんと一緒に、お花見や初詣等にも出かけています。

もみじの家では、みんなでも出かけますが、時には利用者さんの希望を聞いて、職員と二人で出かけることもあります。

ある日のことです。

職員が、散歩の途中に「もう少し行ったら鰻屋があって…」と言うと、利用者さんが、「えっ! まだあるか…ウナギの頭を買ってきて出汁をご飯にかけるんや…美味しかったなあ。」



利用者さんの脳裏には、鮮明に昔の思い出がよみがえっているようで、職員の手をしっかりと握りながら、懐かしそうに思い出話をして下さいました。

外に出てご自身の行きたい場所に歩いて行って、地域の様子を見たり、人と話すことで、普段とは違う表情や笑顔を作り出してくれます。

これから暖くなる季節なので、みなさんとたくさんの発見をしに出かけたいと思います。

洛東園の行事予定

施設名	月	4月	5月	6月
養護老人ホーム		花見会	食事会(日帰り)	屋内ゲーム
特別養護老人ホーム	洛東園	お花見ドライブ	菖蒲湯	買い物ツアー
	修道 洛東園	お花見	家族交流会	地域交流会
デイサービスセンター		お花見ドライブ	子供の日レクリエーション	抹茶レクリエーション
もみじの家		お花見	お誕生日会、菖蒲湯、端午の節句	外出レクリエーション
全体		*****	*****	*****

その他、クラブなども随時行っております。

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園
〒605-0981 東山区本町15丁目794
電話番号:561-1171 FAX:531-8372
ホームページアドレス
<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真、実名表記は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。



寄付・寄贈

【寄付金】
新道社会福祉協議会 様

【寄贈品】
谷口 帛子 様

洛東園 だより

■平成26年4月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:西村 英亮
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

ご挨拶 ～歩～

社会福祉法人 洛東園 園長 西村 英亮

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、社会福祉法人洛東園園長に拝命を受けました西村英亮でございます。前園長の木村晴恵の定年退職により、平成26年2月1日から、社会福祉法人洛東園園長には西村英亮、特別養護老人ホーム修道洛東園施設長には廣瀬可奈子が就任致しました。どうぞよろしくお願い致します。

私は学生時代に2年間、老人ホームでアルバイトをしたことがきっかけで、平成6年の4月から社会福祉法人洛東園で勤務させて頂いております。当初はデイサービスセンターで勤務をさせて頂きましたが、その後、人事異動でホームヘルプサービス、小規模多機能サービスもみじの家、特別養護老人ホーム修道洛東園で勤務をさせて頂き現在に至ります。

入職当初、前木村園長は介護現場で特別養護老人ホームの主任をされており、男性職員も非常に少なく数名であったと思いますが、介護経験が全くなかった私をいつも気にかけて下さり、時に優しく、時に厳しく

指導して頂きました。当時、洛東園での季節の行事が本当に楽しかったことが記憶に残っています。春は屋外バーベキュー、夏は大盆踊り大会、秋は屋外大運動会、冬は餅つき大会等々があり、中でも養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスのご利用者、ご家族、職員が参加しての秋の大運動会では、ご利用者も走ったり、走れない方は車椅子でパン食い競争等々に参加されていた姿が印象に残っています。

『苦楽は生涯の道連れ』と申しますが、ご家族、地域の皆様のご理解、諸先輩方からのご指導、周りの職員の協力を恵まれて、支えられて、これまでやってこることができたと感じております。皆様からの支えに報いるためにも、地域の活性化に向けた社会福祉法人としての地域貢献、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らせる地域づくり、サービスの質の向上、人材育成を目標に法人役職員が志を一つに、ご利用者、ご家族、地域の皆様とともに考え、歩みをすすめていきたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設